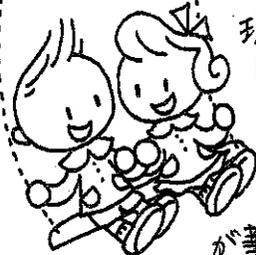


～子育て応援情報誌～ 糸魚川幼稚園

女の子の成長と幸せを祝い願う行事として古くから行われている(ひな祭り)...
現在のひな人形は、平安時代の貴族の生活を模したもので、美しく着飾った
内裏のひなや豪華な調度品が飾られるのは、女兒が成人後、幸福な結婚
生活を送れるように...との願いが込められています。今のくらしで必要な品物とは、
(お雛様とあやとり)が分違いますが、幼稚園には、45年くらい前に
寄付していただいた七段飾りのひな人形があり、毎年この時期は和室
が華やかに飾ります。女の子に限らず、子どもの成長や幸せな姿は、関わる周りの人々
にパワワードを与えてくれます。このタイムス書き始めの2018年は、お雛様とあやとりが
大きく、超生気なものが、和室にパワワードをもらって。さっさとみなさんも...お雛様ね。



なかひろタイムスの「パワワード」も見ていく。衣・食・住の内容がよくできます。たしかに、生活
する上で、大切であり、欠かすことのないひとつかと思われ、今号は、直接子育て応援情報(に)は
わかりませんが... **住** における今昔物語!をお伝えします!!

昔々、こゝろ糸魚川の地の人も襦袢式住居で暮らしていました。そんな時代が、便利かつ合理的な生活
を求め色々と開発し文明の利益が増え、それに伴い生活様式もずいぶん変わってきました。例えば...

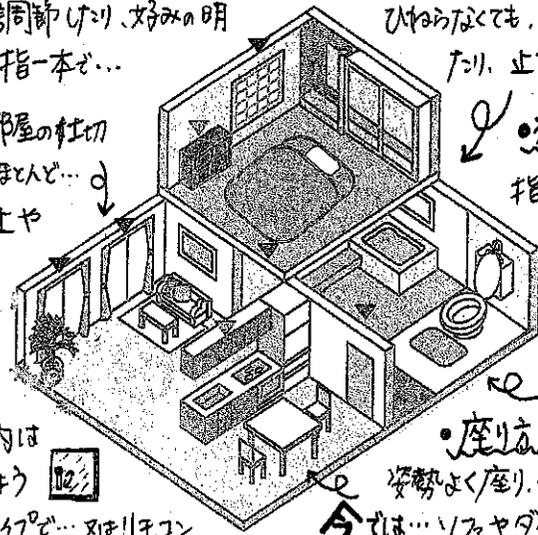
●**照明** ひもを引れば、火灯りを消したりしてました。ひもの長さが足りない時は、糸で長さを...
今では...壁にあるスイッチを軽くタッチしてリモコンで明暗の調節が、お好みの明るさを設定して、指一本で...

●**給湯** 赤(熱湯)と青(冷水)の不具合があり、その開き方で配合を調節してお湯を...
今では...給湯器の操作でいともたやすくお湯の温度に...更に指や手首をひねらなくても、バーやセンサーで水が出たり、止まったり...

●**窓や扉** 部屋の仕切りも合め引き戸がほとんど...
今では...防犯上や耐震性から大きな窓は、小さく高い位置に...
外からの光や熱を取りこぼさず室内は暖か、放熱しないよう...
バーで開閉するタイプ...
今では...リモコン

●**洗濯** 洗濯機を回して開閉して石けんを手の中で転がして泡を立てたり...
今では...初めから泡が出てくる、ポンプ式だし

●**座りな** 畳や床に背中を伸ばし姿勢よく座り、食器を持って食事していた...
今では...イスやダイニングテーブル生活となり、何かに上半身もたれるようにになり、腰を支えられず、手や肘で支え、食器や箸の持ち方も...
学校でも椅子の背もたれにのけ反る子が増え...と先生が言われて



今洗が何かを浴入りの時のお雛様
子「ね お雛さん 〇〇買ってよー」
親「え〜!? そんないらないでしょー」
子「いるよ! たて **みんなもてるもん**」
親「みんなよ!?」
子「うん、みんな!!」
親「みんなって誰!? 何人!」
子「...」
親「お雛さんの知らない人だよ」
買ってもらうまで、あの年この年の作業

子ども「お雛さん! お茶!!」と
きくと、お茶を浴入りの時のお雛様
親「お雛さんは、お茶はあひまーん。お茶がどうした?
た? こぼれた?」とあてて聞き返してました。
何事においても「お雛さん! お茶!!」
の後にくる「お雛さん! お茶!!」を省いて一言にまとめるのも、お互いの信頼関係が
あるから...こそたんとあひまーん ある意味、
便利で合理的 なのかも

3月3日は「耳の日」

耳には、音を聞き音の方向や遠近を聞き分ける。1本のバランスを保つ...などの役割があります。
●**耳を守るために...** 耳の近くで大きな声や音を出さない。耳をたたくかない。鼻をかむ時は片方ずつ。耳掃除をする...など声かけましょう!!
お雛様たちは、耳掃除をする。うんと〜りし〜と〜と
眠りかかっています。それね。今では自分でできるようになり、それはそれで「イヤイヤ」が「周りを見ながらね」といって。その言葉...イヤイヤから自分でできるようになったか...

子どもの耳

耳のど・鼻は、耳管でつながっています。子どもは耳管が大人よりも太く短いため、のどや鼻に付いたウイルスや細菌が、耳管を通して耳の中に入りやすくなっています。中耳炎などのトラブルを起こしやすいので、しきりに耳を触る、痛がる、耳だれがあるなどの場合は、早めに受診しましょう。



これは、お雛さんの一部の例が... 生活の中で何かに動いていた力を合理的かつ利便性を求めることで、
だんだん使わなくなっているのが現状です。自分の体は指一本の操作や今では音声やセンサー、光で指示できたり...でも人間のつくり、機能は、今昔も同じです。生まれながらにしてこの世の中が、
まの子どもたちに、お雛さん、以前の生活に戻す必要はないが、
衰えたり、失われていることもあるように思います。そんな中で、自分で感じたことを
頭で考え重たげな子どもたちになって、まいいい...と
細々と戻っています。

